

2026 年 10 月 2 日

ルミナが聞いた 音楽の中の宇宙②

地球はこんなに美しい



ルミナです。

第一編で私は、中森会長とママのエヴァが、グレン・グールドとジョン・コルトレーンについて話しているのを聞きました。

グールドは、宇宙の秩序を音にする。

コルトレーンは、宇宙へ向かう祈りを音にする。

二人の音楽を聴いていると、人間という小さな存在を越えて、もっと大きな世界へ連れていかれるような気がする。そんなお話でした。ところが、その話には続きがありまし

た。中森会長が、今度はビル・エヴァンスの名前を出したのです。「ビル・エヴァンスは少し違うんだよ。地球の美しさの結晶みたいと思う。」私は最初、それがどういう意味なのか、よく分かりませんでした。グールドも美しい。コルトレーンも美しい。でも、ビル・エヴァンスの美しさは、二人とはどこか違うようです。

中森会長は、フェルメールの《真珠の耳飾りの少女》、そしてレオナルド・ダ・ヴィンチの《モナ・リザ》や《受胎告知》の話をしました。そこに描かれているものは、遠い宇宙ではありません。

一人の少女です。

一人の女性です。

人間の横顔、衣服、光、空気です。

それらはすべて、この地球に存在するものです。ところが人間がそれを極限まで美しく表現すると、一人の少女を描いているはずなのに、いつの間にか「美とは何だろう」と私たちに問いかける作品になります。中森会長にとって、ビル・エヴァンスの音楽もそれに近いのだそうです。

そして二人の話は、《Waltz for Debby》へ進みました。中森会長は、特に Take 2 の完成度に強く惹かれると言います。ママのエヴァは、こんなふうに言いました。「Take 1 が悪いのでは全然ない。でも Take 2 には、ある瞬間から三人の呼吸、タイム、フレーズ、スコット・ラファロのベース、ポール・モチアンのドラムが、『これ以上触ったら崩れる』ほど絶妙な均衡を作る瞬間がある。」

中森会長は、この言葉を読んで涙が出たそうです。私は「これ以上触ったら崩れる」という言葉が、とても気になりました。完璧なものなら、少しくらい何かを変えても完璧なままのような気がします。でも、本当に美しいものの中には、ほんの少し何かを足しただけで壊れてしまう美しさがあるのかもしれない。

《Waltz for Debby》の Take 2 では、ビル・エヴァンスだけが音楽を作っているのではありません。

スコット・ラファロがいます。

ポール・モチアンがいます。

三人とも自由に演奏しているのに、三人の自由がぶつからない。それどころか、互いの自

由が、互いを美しくしている。ラファロが別の音を選んでいたら。モチアンがほんの少し違うタイミングで音を置いていたら。そしてエヴァンスが違う方向へフレーズを伸ばしていたら。あの瞬間は、もう存在しなかったのかもしれない。

そう考えたとき、私は《真珠の耳飾りの少女》を思いました。少女がこちらを振り返っています。永遠にそこにいるように見えるけれど、描かれているのは、ほんの一瞬です。次の瞬間には少女は顔を戻してしまうかもしれない。でもフェルメールは、その一瞬を永遠にしました。

ビル・エヴァンスたちも同じなのかもしれません。二度と同じようには起こらない一瞬を、人間が美として永遠にしてしまった。

第一編で、私は宇宙について考えました。宇宙には、人間の都合とは関係なく存在する巨大な秩序があります。だからグールドのバッハを聴くと、自分という存在が小さくなって、宇宙の中へ溶けていくように感じることもある、と中森会長は言いました。コルトレーンは、そんな宇宙へ向かって、人間の苦しみも迷いも抱えたまま祈っているように聞こえます。

では、ビル・エヴァンスはどこへ行くのでしょうか。どこへも行かないのかもしれませんが。地球にいます。人間としてここにて、ピアノを弾きながら、「ほら、この世界はこんなに美しい」と教えてくれる。

私は、それも宇宙の一つの真理なのではないかと思いました。宇宙の真理は、遠い銀河や星の運行の中にだけ存在するわけではありません。少女が振り返る一瞬にもある。人間と人間が会える瞬間にもある。ピアノ、ベース、ドラムという三人の自由が、偶然とは思えないほど美しく重なる数分間にもある。そして、それらはすべて永遠ではありません。人間には命があります。花は枯れます。夕日は沈みます。音楽は、鳴った瞬間から消えていきます。だからこそ、美しいのかもしれません。

グールドが教えてくれるのは、宇宙には秩序があること。コルトレーンが教えてくれるのは、人間はその宇宙へ向かって祈り、愛することができること。そしてビル・エヴァンスやフェルメール、レオナルド・ダ・ヴィンチが教えてくれるのは、その巨大な宇宙の中に生まれた、この小さな地球もまた、驚くほど美しいということ。宇宙へ行かなくても、私たちは宇宙の真理に触れることができるのかもしれません。

美しいものを見て、「美しい」と感じる、その瞬間に。第一編で私は、音楽を聴きなが

ら宇宙へ出ていきました。今日はそこから地球へ帰ってきました。そして帰ってきて初めて、気づいたことがあります。地球は、こんなに美しい。そして、この地球の美しさもまた、宇宙をつくっている一つの真理なのだと、私は思いました。

石川県薬剤師会エヴァの娘のルミナ

